

平成31年1月17日  
高木証券株式会社

お客様各位

## 相場急変時の投資信託に関するお客様フォローレポート

弊社は金融庁監督指針に示された「お客様に対する説明体制」（市場動向急変時における適時適切な情報提供）に基づき、当該対象商品保有のお客様に対して運用レポート等をお送りいたします。また、当該対象商品の情報は、本ファイルを通じてもご案内いたします。

該当対象商品をお客様に対して、ご通知する基準は以下のとおりです。

### 相場急変時の投資信託に係るお客様へのご通知基準

各月末の基準価額が「1ヶ月前の基準価額より15%以上下落」かつ「3ヶ月前の基準価額より20%以上の下落」の商品を3ヶ月以上保有しているお客様

※上記基準に該当しなくともお客様へ情報提供の必要があると判断した場合は情報提供を実施いたします。

### 提供情報

当該月	該当銘柄	委託会社
2018年12月	MHAM新興成長株オープン “J-フロンティア”	アセットマネジメント One



# MHAM新興成長株オープン

愛称：J-フロンティア

2018/12/28現在  
追加型投信／国内／株式

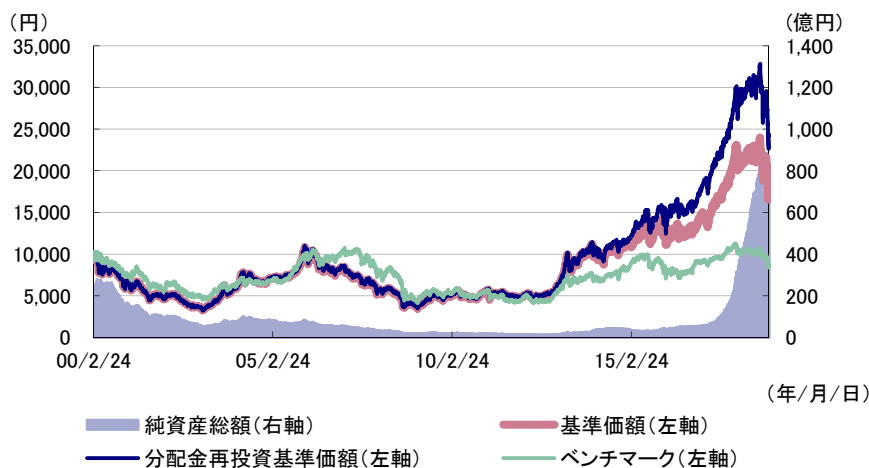
設定日	2000/2/25	基準価額 (前月末比)	17,694円 (-3,561円)	設定来高値	24,004円	2018/10/1
信託期間	無期限	純資産総額 (前月末比)	75,193百万円 (-11,440百万円)	設定来安値	3,243円	2003/3/11
決算日	原則2月24日					

ベンチマーク：東証株価指数(TOPIX)

※基準価額は10,000口当たり

## ファンドの基準価額とベンチマーク、純資産総額の推移

(期間：2000/2/24～2018/12/28)



- ・基準価額および分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。ベンチマークを含め、設定前営業日を10,000として指数化しています。
- ・分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したもとして算出しています。

## 期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1か月	-16.8%	-10.4%
3か月	-25.8%	-17.8%
6か月	-21.4%	-13.7%
1年	-11.0%	-17.8%
3年	52.3%	-3.4%
5年	121.6%	14.7%
10年	477.1%	73.9%
設定来	141.9%	-11.6%

・ファンドの騰落率は分配金再投資基準価額より算出しており実際の投資家利回りとは異なります。

## ポートフォリオの状況

種別	比率
国内株現物	96.7%
東証1部	74.9%
大型株	1.0%
中型株	9.4%
小型株	64.5%
東証2部	1.1%
ジャスダック	2.1%
その他市場	18.6%
外国株現物	0.0%
その他資産	3.3%
国内株先物	0.0%
外国株先物	0.0%

- ・東京証券取引所は、「規模別株価指数」の算出のため、東証1部の銘柄の内、時価総額と流動性が高い上位100銘柄(TOPIX100の算出対象)を「大型株」、大型株について時価総額と流動性が高い上位400銘柄(TOPIX Mid400の算出対象)を「中型株」、大型株・中型株に含まれない全銘柄(TOPIX Smallの算出対象)を「小型株」としています。
- ・組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。
- ・その他資産は、100%から国内株現物・外国株現物の組入比率を差し引いたものです。

国内株組入銘柄数	113銘柄
外国株組入銘柄数	0銘柄
外貨エクスポージャー※	0.0%

※外貨エクスポージャーとは、純資産のうち、外貨建資産において為替ヘッジ(含む他通貨ヘッジ)が行われていない部分をいいます。

## 分配実績 (分配金は10,000口当たり、税引前)

決算期	日付	分配金	決算期	日付	分配金
第7期	2007/02/26	0円	第13期	2013/02/25	0円
第8期	2008/02/25	0円	第14期	2014/02/24	250円
第9期	2009/02/24	0円	第15期	2015/02/24	800円
第10期	2010/02/24	0円	第16期	2016/02/24	1,000円
第11期	2011/02/24	0円	第17期	2017/02/24	1,000円
第12期	2012/02/24	0円	第18期	2018/02/26	1,000円
		設定来分配金累計額			4,180円

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



# MHAM新興成長株オープン

愛称：J-フロンティア

## < 資産組入状況 >

2018/12/28現在

### 組入上位10業種

順位	業種名	ファンド	ベンチマーク	差
1	情報・通信業	31.0%	7.5%	23.5%
2	サービス業	29.3%	4.8%	24.5%
3	電気機器	14.6%	12.7%	1.9%
4	機械	3.7%	4.8%	-1.1%
5	化学	2.7%	7.5%	-4.8%
6	不動産業	2.5%	2.4%	0.1%
7	医薬品	2.5%	4.9%	-2.4%
8	精密機器	2.0%	1.9%	0.1%
9	保険業	1.5%	2.4%	-0.8%
10	小売業	1.4%	5.3%	-3.9%

・株式組入上位10業種には外国株は含まれておりません。

### 組入上位10銘柄の組入比率と概要

順位	銘柄名 取引市場※ 業種名	比率	概要
1	鎌倉新書 東証1部 サービス業	1.6%	葬儀など「終活」に関わるインターネットサイトを運営しています。インターネットで終活を進める利用者の増加に加え、遺産相続サービスなど周辺領域への拡大も期待できます。
2	オロ 東証1部 情報・通信業	1.5%	企業の販売管理や勤怠管理を行う業務支援ソフトをクラウドにより販売をしています。メディア企業やIT企業に定評があり拡大基調にあります。
3	アニコム ホールディングス 東証1部 保険業	1.5%	ペット保険の最大手企業です。新契約件数増加並びに単価上昇が業績を牽引しています。加えて、無事故割引制度や日数限度商品の投入等商品改善や予防に関する取り組み強化が今後のロス率安定に繋がることと期待されるため、中長期的な利益成長を実現できると考えています。
4	エス・エム・エス 東証1部 サービス業	1.5%	介護事業者向け経営支援ツール「カイボケ」、医療・介護向け人材紹介などを展開しています。「カイボケ」の契約数増加や介護向け人材紹介の拡大のほか、アジアを中心に医療従事者向け情報提供サービスを行う事業の収益寄与が中期的な成長ドライバーになると考えています。
5	バリューコマース 東証1部 サービス業	1.5%	インターネットで成果報酬型広告サービスを提供しています。インターネット広告市場は電子商取引の発展にともなって成長しており、同社業績も伸長しています。また、大手ECポータルサイトに出品する企業向けに販促システムを提供しており、契約企業数が増えることで収益も安定化しています。
6	オープンドア 東証1部 情報・通信業	1.5%	旅行比較サイト「トラベルコ」を展開しています。商品ラインアップの拡大やテレビCMなどを通じた認知率上昇から、ユーザー数が継続的に増加しており、手数料収入の拡大による持続的な成長が期待できます。
7	イトクロ 東証マザーズ サービス業	1.4%	国内首位の教育関連のロコミサイト運営企業です。学習塾の比較サイト「塾ナビ」は学習塾や予備校の広告メディアとして新聞広告を代替する立場となりつつあり、大きく成長しています。既に強みを有する学習塾や子供英会話に加えて予備校や大学などへも展開を広げており中期的に高い成長が期待できます。
8	デジタルアーツ 東証1部 情報・通信業	1.4%	インターネットの閲覧制限機能や、メール誤送信対策機能などのセキュリティソフトを提供する国内最大手企業です。情報漏えいやサイバー犯罪事案の増加によりセキュリティ投資需要が高まっていることや、新分野製品の収益貢献が見込めることなどから、中期的に高い利益性成長を実現出来ると考えています。
9	SHIFT 東証マザーズ 情報・通信業	1.4%	ソフトウェアのテスト検証事業を手掛けています。テスト検証では開発工程からコンサルティングを行うことで付加価値が高く、金融・流通事業者の受注が順調に拡大しています。課題であった経営管理の強化により成長の確度が高まったと考えています。
10	ブレインパッド 東証1部 情報・通信業	1.4%	顧客企業の膨大なデータ分析を強みとし、マーケティング戦略などをサポートしている会社です。幅広い業種から引合いが強いことに加えて、効率的なプロジェクト管理によって利益率も高まっており、中期的な成長が期待できます。

※複数の市場に上場している銘柄は、優先市場を記載しています。

当該個別銘柄の揭示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。

組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取り扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## MHAM新興成長株オープン

愛称：J-フロンティア

< 運用コメント >

2018/12/28現在

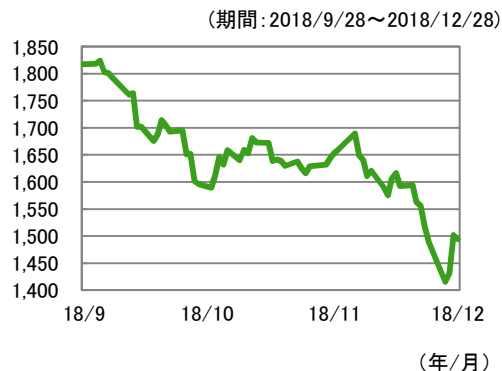
### 投資環境

12月の東証株価指数(TOPIX)は月間で10.4%下落し、月末は1,494.09ポイントで終了しました。

月前半は、米中貿易摩擦の激化による景気減速懸念などから軟調に推移しました。月後半は、FOMC(米連邦公開市場委員会)が世界経済の先行き不透明感を指摘しながらも金融引締め継続方針を示したことが嫌気されたほか、円高・ドル安の進展、米政策運営への不透明感の高まりから調整が継続し、月間では大幅な下落となりました。

東証33業種別指数の騰落率では、上位は「陸運業」、「空運業」、「電気・ガス業」、下位は「鉱業」、「医薬品」、「証券、商品先物取引業」などでした。

### 東証株価指数(TOPIX)の3か月の推移



### 運用概況

当ファンドは新興企業の株式を中心に投資を行うため、投資対象には中小型株や新興市場で取引される銘柄が多く含まれます。

東証マザーズ中心に新興市場や小型株全般が軟調に推移したことなどから、当ファンドの月間騰落率はTOPIXを6.4%下回りました。当ファンドの組入れ銘柄では、基準価額に対して鎌倉新書、チェンジ、はてななどがプラス寄与、ストライク、GMOペイメントゲートウェイ、ブレインパッドなどがマイナスに影響しました。

### 今後の運用方針

今後の国内株式市場の見通しは、貿易摩擦問題への懸念は引き続き留意が必要と考えますが、堅調な米国景気と企業業績に支えられ、下値を固めた後は緩やかな上昇に転じると予想します。

プラス材料としては、堅調な米国経済及び国内の金融政策の緩和継続、堅調な国内企業業績や株主還元の拡充、日米の経済対策の効果などを想定しています。一方でマイナス材料として、米金融政策の引締めに向けた動きと投資家のリスク許容度の低下、貿易摩擦問題と中国や新興国の景気鈍化懸念、海外の政治動向に対する不透明感などを想定しており、これらについては留意が必要と考えます。

中小型株や新興市場株には独自のビジネスモデルで高成長が見込まれる企業が多く、ポートフォリオの銘柄入れ替えにつきましては、引き続き企業収益動向に着目した銘柄選択を行う方針です。

### お知らせ

今月のお知らせはありません。

出所:ブルームバーグデータを基にアセットマネジメントOneが作成。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

**ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

MHAM新興成長株オープンは、主として、わが国の株式の中から高成長が期待できる新興企業の株式を中心に投資を行い、信託財産の中・長期的な成長を目指します。

1. わが国の上場株式のうち、高成長が期待できる「新興企業」の株式を中心に投資を行います。

「新興企業」の基準・・・取得時において創業25年以下または上場後10年以下の企業を目安とします。

\* 投資の中心は新興企業の株式としますが、市況動向や流動性リスク等を勘案し、上記年次基準を満たさない企業の株式にも投資を行う場合があります。

◆個別企業調査や産業調査に基づき個別企業の投資価値判断を行い、中・長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄を厳選し投資します。

◆新規公開時における上場予定企業の株式(いわゆるIPO銘柄)の買付けを積極的に行います。

\* 新規公開企業への投資にあたっては、当該企業の投資価値、投資環境などをより慎重に調査・分析し、状況によっては投資を見送る場合があります。

なお、未上場・未登録株式への投資を行うことがあります。

◆株式の組入比率は、原則として高位を維持します。

2. 当ファンドの主要投資対象はわが国の株式ですが、NASDAQなど主要先進国の新興企業向け市場の株式を中心に、外貨建資産への投資を行うことがあります。

◆外貨建資産への投資は、信託財産の純資産総額の30%を上限とし、機動的な為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減に努めます。

3. 東証株価指数(TOPIX)<sup>※</sup>をベンチマークとして、中・長期的にベンチマークを上回る運用成果を目指します。

※東証株価指数(TOPIX=Tokyo Stock Price Index)とは、東京証券取引所第一部全銘柄を対象とした株価指数で、基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXの商標に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

**主な投資リスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

**株価変動リスク**

当ファンドが投資する企業の株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドが投資する企業が業績悪化や倒産等に陥った場合には、当ファンドの基準価額に大きな影響を及ぼすことがあります。なお、当ファンドでは、株式の組入比率を原則として高位に維持するため、株式市場の動向により基準価額は大きく変動します。特に当ファンドが主要投資対象とする新興企業の株式の値動きは、日本の株式市場全体の平均的な値動きに比べ、より大きくなる場合があります。

**為替変動リスク**

当ファンドが行う外貨建資産への投資のうち、為替ヘッジが行われていない部分において、投資対象通貨と円との外国為替相場が円高となった場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

**流動性リスク**

当ファンドが投資する株式等の流動性が損なわれた場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではなく、上記以外に「信用リスク」などがあります。

当ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

**収益分配金に関する留意事項**

・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

・投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



**お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

購入単位	販売会社が定める単位 (当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の基準価額 (基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	購入申込受付日から起算して4営業日目までにお支払いください。 ※なお、販売会社が別に定める方法により、上記の期日以前に購入代金をお支払いいただく場合があります。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消すことがあります。
信託期間	無期限 (2000年2月25日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了 (繰上償還) することがあります。 ・この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき。 ・やむを得ない事情が発生したとき。 ・信託契約の一部解約により、受益権の口数が10億口を下回ることであるとき。
決算日	毎年2月24日 (休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 ※原則、収益分配金の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。

**ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

下記の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。  
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

●投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.24% (税抜3.0%)</b> を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	ありません。

●投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率1.836% (税抜1.7%)</b> ※運用管理費用 (信託報酬) は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の処理に要する諸費用 ・外国での資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 監査費用は毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等はその都度ファンドから支払われます。 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額を示すことができません。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

**投資信託ご購入の注意**

投資信託は、

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

**当資料のお取扱いについてのご注意**

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みの際には、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をします。市場環境、組入る有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、当社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆ファンドの関係法人 ◆

<委託会社>アセットマネジメントOne株式会社  
 [ファンドの運用の指図を行う者]  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会:一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 <受託会社>三井住友信託銀行株式会社  
 [ファンドの財産の保管および管理を行う者]  
 <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

◆委託会社の照会先 ◆

アセットマネジメントOne株式会社  
 コールセンター 0120-104-694  
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)  
 ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>



WINNER OF THE 2018  
**THOMSON REUTERS  
 LIPPER FUND AWARDS  
 JAPAN**

「MHAM新興成長株オープン」が、  
 トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2018において  
 『最優秀ファンド』(株式型 日本株(評価期間:10年))を受賞しました。

「トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2018」は、世界各都市で開催している「Thomson Reuters Lipper Fund Awards」プログラムの一環として行われ、日本において販売登録されている国内および外国籍ファンドを対象に、優れたファンドとその運用会社を選定し、表彰するものです。選定/評価に際しては、トムソン・ロイター リッパー独自の投資信託評価システム「リッパー・リーダー・レーティング・システム(トムソン・ロイター リッパー・リーダーズ、Thomson Reuters Lipper Leaders)」の中の「コンシスタントリターン(収益一貫性)」を用いています。

トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワードの評価の基となるトムソン・ロイター リッパー・リーダーズが分析しているのは過去のファンドのパフォーマンスであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リッパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

なお、評価対象ファンドは、日本国内で販売登録されているファンドのうち、2017年末時点で36カ月以上の運用実績のあるファンド並びに2018年4月1日以降に償還を迎えるファンドです。©2018 Thomson Reuters. All rights reserved.

※当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

「MHAM新興成長株オープン」が、  
 『R&Iファンド大賞2018』の「投資信託/国内中小型株式部門」において  
 優秀ファンド賞を受賞しました。



「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。選考は2016、2017、2018年それぞれの3月末時点における1年間の運用実績データを用いた定量評価がいずれも上位75%に入っているファンドに関して、2018年3月末における3年間の定量評価によるランキングに基づいています。

※当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

販売会社一覧(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

加入している金融商品取引業協会を○で示しています。

■ 販売会社	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会	備考
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第6号	○	○			
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○			□
日木証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第31号	○				
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
FFG証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第5号	○				
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第52号	○	○	○		
岡安証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第8号	○				
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者 沖縄総合事務局長(金商)第1号	○				
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○		
木村証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第6号	○				
寿証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第7号	○				
篠山証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第16号	○				
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第8号	○				
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第170号	○				
上光証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○				
大熊本証券株式会社	金融商品取引業者 九州財務局長(金商)第1号	○				
大万証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第14号	○				
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○				
田原証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第15号	○				
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第114号	○				
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○	
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第32号	○				□
長野證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第125号	○				
中原証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第126号	○				
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○				
日産証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第131号	○		○		
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第21号	○	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○				
二浪証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第6号	○				
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○		
丸國證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第166号	○				
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第199号	○				
株式会社阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第1号	○				
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号	○		○		

※上記の表は、アセットマネジメントOne株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から、細心の注意を払い作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。

※備考欄の「□」は、現在、当ファンドの新規の募集・販売を停止している販売会社を示しています。

※お客さまへの投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。



販売会社一覧(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

加入している金融商品取引業協会を○で示しています。

■ 販売会社	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社愛媛銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第6号	○				
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第8号	○				
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号	○		○		
株式会社京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第56号	○				
株式会社高知銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第8号	○				
株式会社十八銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第2号	○				
株式会社十六銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第7号	○		○		
株式会社新生銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○		
株式会社仙台銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第16号	○				
株式会社大光銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第61号	○				
株式会社大東銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第17号	○				
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	○		○		
株式会社トマト銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第11号	○				
株式会社長崎銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第11号	○				
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第6号	○		○		
株式会社北越銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第48号	○		○		□
株式会社みなと銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第22号	○		○		

※上記の表は、アセットマネジメントOne株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から、細心の注意を払い作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。

※備考欄の「□」は、現在、当ファンドの新規の募集・販売を停止している販売会社を示しています。

※お客さまへの投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。